

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和元年1月10日

協議会名: 魚津市公共交通活性化会議  
 評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者名: 魚津市 運行系統名: 上野方ルート	魚津消防署前～魚津駅	平成30年12月に、住民及び利用者アンケートを実施し、バス交通に対するニーズの把握に努めた。 平成30年4月1日より中・高校生の運賃を200円から100円に値下げした。 バスの日(令和元年9月20日)を無料乗車デーとし、新たな需要の掘り起こしを図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人/月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和元年度実績 14,690人/月(平成30年10月～令和元年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和元年度実績 41.1% 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.36人/km 令和元年度実績 0.31人/km  富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、小学生以下の運賃が無料となる「こどもの日キャンペーン」や夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしを図られた。 また、停留所毎の利用者数の増減等から、平成30年4月の中学生及び高校生利用者増が推測されるが、これまで利用していた高齢者層の利用者数は年々減少しており、何れの目標も達成しなかった。 地域住民の声を聞きながら、ルート及びダイヤの見直しを行っているが、地域内人口が多くないことから、大幅な利用者増には繋がっていない。また、人口の比較的多い隣接地域での利用者増が図れるよう工夫を行っているが、更なる工夫の余地があると考えられ、地域間での情報共有を図りながら利用促進に取り組む必要がある。 ・年間利用者数: 13,470人(前年度: 13,303人) ・1日平均利用者数: 45.9人(前年度: 45.2人) ・事業収入: 2,180,710円(前年度: 2,069,410円)	今後も、運行に関し幅広い年代を対象にした啓発活動とともに利用者や非利用者の声を聴く活動を継続し、沿線住民や隣接地域住民にとって、身近で利便性の高い路線として持続可能な運行形態を目指す。 路線内に学校が複数あることから若年層の利用促進に努め、減少傾向に歯止めがかかっている状態が一時的なものにならないよう、更なる利用の定着と促進に努める必要がある。そのため、平成30年度に新設した停留所等の利用状況を見ながら、更なる利便性について検討していく。 また、市民バス全体として、現行の料金体系の見直しや定期券の導入等も視野に入れながら、新たな利用者の獲得を目指す必要がある。
事業者名: 魚津市 運行系統名: 松倉ルート	鹿熊～魚津駅	平成30年12月に、住民及びバス利用者アンケートを実施し、市内バス交通に対するニーズの把握に努めた。 バスの日(令和元年9月20日)を無料乗車デーとし、新たな需要の掘り起こしを図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人/月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和元年度実績 14,690人/月(平成30年10月～令和元年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和元年度実績 41.1% 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.36人/km 令和元年度実績 0.31人/km  富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、小学生以下の運賃が無料となる「こどもの日キャンペーン」や夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしを図られた。 また、停留所毎の利用者数の増減等から、平成30年4月の中学生及び高校生利用者増が推測されるが、これまで利用していた高齢者層の利用者数は年々減少しており、何れの目標も達成しなかった。 自由乗降型のデマンド(一部区間で実施)利用者は前年比で減少しているが、利用者は存在することから交通弱者の日常の足を確保している。 ・デマンド利用: 2,638人(前年度: 2,771人) ・年間利用者数: 12,164人(前年度: 11,903人) ・1日平均利用者数: 41.5人(前年度: 40.5人) ・事業収入: 1,478,046円(前年度: 1,561,690円)	今後も地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な路線として、利便性の高い運行形態を目指して改善を行い、持続的な運行を目指し、利用者や非利用者の声を聴く活動を行い、他地域を含めた新たな利用者獲得のために、運行ルートやダイヤも利用者ニーズを活かした形に見直ししていく。 起点地域の過疎化に加え、高齢者の利用の減少が続いているが、中学生等学生の利用が増加してきていることから、これまでとは異なる利用者層の獲得を目指す。市民バス全体として、現行の料金体系の見直しや定期券の導入等も視野に入れながら、新たな利用者の獲得を目指す。 自由乗降型のデマンド実施区間の人口は年々減少しており、利用者となる可能性のある人数自体が減少しているが、自家用車の利用からバスの利用に切り替えてもらえるよう、利用促進活動や魅力的な誘導施策の検討が必要である。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>事業者名：魚津市 運行系統名：坪野ルート</p>	<p>坪野～魚津駅</p>	<p>平成30年12月に、住民及び利用者アンケートを実施し、バス交通に対するニーズの把握に努めた。 バスの日(令和元年9月20日)を無料乗車デイとし、新たな需要の掘り起こしを図った。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人/月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和元年度実績 14,690人/月(平成30年10月～令和元年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和元年度実績 41.1% 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.36人/km 令和元年度実績 0.31人/km</p> <p>C 富山地方鉄道(株)や沿線自治体と共同で、小学生以下の運賃が無料となる「こどもの日キャンペーン」や夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。 また停留所毎の利用者数の増減等から、平成30年4月の中学生及び高校生利用者増が推測されるが、これまで利用していた高齢者層の利用者数は年々減少しており、何れの目標も達成しなかった。 自由乗降型のデマンド(一部区間で実施)利用者は前年比で減少しているが、利用者は存在することから交通弱者の日常の足を確保している。 ・デマンド利用：174人(前年度：183人) ・年間利用者数：10,586人(前年度：10,449人) ・1日平均利用者数：36.1人(前年度：35.5人) ・事業収入：1,398,915円(前年度：1,665,763円)</p>	<p>今後も引き続き地域住民の通院・買物等、日常生活に必要な路線として、利便性の高い運行形態を目指して、改善を行い、持続的な運行を目指す必要がある。</p> <p>起点地域の過疎化に加え、高齢者の利用の大きく減少しているが、中学生等学生の利用者が増加してきていることから、これまでとは異なる利用者層の獲得を目指す。 また、必要に応じて、ルート変更及び新規バス停留所の設置も検討し、地域住民や沿線地域住民の要望を聞きながら、ニーズに合った路線を目指す。 市民バス全体としては、現行の料金体系の見直しや定期券の導入等も視野に入れながら、新たな利用者の獲得を目指す。 自由乗降型のデマンド実施区間の人口は年々減少しており、利用者となる可能性のある人数自体が減少しているが、自家用車の利用からバスの利用に切り替えてもらえるよう、利用促進活動や魅力的な誘導施策の検討が必要である。</p>
<p>事業者名：富山地方鉄道(株) 運行系統名：東蔵</p>	<p>東蔵～電鉄魚津駅</p>	<p>鉄道との接続を考慮し、平成31年4月1日にダイヤ改正を行い、利便性向上を図った。 バスの日(令和元年9月20日)を無料乗車デイとし、新たな需要の掘り起こしを図った。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人/月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和元年度実績 14,690人/月(平成30年10月～令和元年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和元年度実績 41.1% 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.36人/km 令和元年度実績 0.31人/km</p> <p>C 親子参加型イベント等の移動で積極的にバス利用を行うなど、地域が一体となった取り組みを通じて利用促進が図られている。 あわせて、小学生以下の運賃が無料となる「こどもの日キャンペーン」や夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。 沿線地域の要望を反映し、平成29年4月1日からは、平日の一部路線のダイヤを変更し、中学生利用者の利便性を高め、新たな利用者の獲得を目指した。平成30年4月1日より魚津市民バスの回数券の利用をできるようにし、さらに中・高生の料金を100円に値下げした。なお、利用者数の減少は、沿線人口の減少と新たな利用者の獲得ができていないことが要因として考えられる。 東蔵地区で実施している事前予約式乗車のデマンド運行については、月間平均79.5人(平成30年度74.0人)の利用、月間平均133.0km(平成30年度128.7km)の実車走行となっており、住民に浸透していると考えられる。利用者については東蔵行きでの利用が大半であり、電鉄魚津駅行きでの利用はごく少数に止まっている。しかしながら一定数の需要はあることから、今後も需要掘り起こしのために、啓発活動を続けていく必要がある。 ・1日平均利用者数：57.9人(前年度：63.9人)</p>	<p>沿線人口が減少し、65歳以上高齢者の免許保有率が高まることが想定されるが、今後も沿線利用者等のニーズに合わせた運行形態、ダイヤの見直し等を行いながら、利用者の確保を続けていくことが必要である。 今後も引き続き、地区会合や老人会等で利用者等の声を聞き、潜在的な利用者の掘り起こしや、必要であれば利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直しや、魚津市民バスと一体となった利用促進策を検討していくことが必要である。 また、市と共同で実施したバス無料乗車デイ(9月20日)での乗車数は137人/日となっており潜在的需要は存在すると思われることから、今後も継続的に利用促進活動に取り組み、新たな利用者の獲得に努める。</p>
<p>事業者名：富山地方鉄道(株) 運行系統名：黒沢・大沢</p>	<p>大沢～電鉄魚津駅</p>	<p>平成31年4月1日より、魚津市民バスとの一部重複路線も含めてダイヤ調整を行い、特に沿線近隣企業の通勤利便性の向上に努めた。</p>	<p>A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。</p>	<p>定量的な目標・効果 【目標①】市内バス交通の延べ利用者数 17,845人/月(平成27年6月～平成28年5月)の維持 令和元年度実績 14,690人/月(平成30年10月～令和元年9月) 【目標②】公共交通満足度 60.0% 令和元年度実績 41.1% 【目標③】市内バス交通の乗車密度 0.36人/km 令和元年度実績 0.31人/km</p> <p>C 地域が一体となった取り組みを通じて利用促進が図られている。 平成30年4月1日より魚津市民バスの回数券の利用をできるようにし、さらに中・高生の料金を100円に値下げした。これにより、利用者数、運賃収入とも前年度比で増加していることから、新たな中学生・高校生の需要が掘り起こされ、高校生以下の利用率が高まっていることが想定される。 また、小学生以下の運賃が無料となる「こどもの日キャンペーン」や夏休みに保護者と同伴の小学生を無料とする「親子でおでかけ事業」を実施した。これらの事業の目的は、公共交通の利用啓発及び、利用方法の習得である。これらの取り組みを通じて、将来の需要の掘り起こしが図られた。 地域住民の生活及び通勤・通学に必要な路線であることから、今後も沿線利用者等のニーズに合わせた運行形態、ダイヤの見直し等を行いながら、利用者の確保を続けていくことが必要である。 ・1日平均利用者数：46.7人(前年度43.3人)</p>	<p>利用実績については、前年比で微増しているが、これが継続するように引き続き利用促進に向けた取組みが必須である。今後も、地区会合や老人会等で利用者等の声を聞き、潜在的な利用者の掘り起こしや、必要であれば利用者ニーズを活かした運行形態、ダイヤの見直し、魚津市民バスと一体となった利用促進策を検討していくことが必要である。 また、市と共同で実施したバス無料乗車デイ(9月20日)での乗車数は58人/日となっており、潜在的な需要は存在すると思われることから、今後も継続的に利用促進活動に取り組み、新たな利用者の獲得に努める。 沿線人口の減少及び65歳以上高齢者の免許保有率が高まっていくことが想定されることから、通勤や通学での利用者の増加が見込めるよう、利用者の声が反映され、より利便性の高いダイヤとなるよう努める。</p>